

## 最新の生化学・尿検査自動分析装置が入りました！

臨床検査部には大型の分析装置とそれらを制御するパソコンがところ狭しと配置され、さながら工場のように感じる方も多いのではと思います。臨床検査部にはそれぞれの診療科から毎日検体が届きます。400 床の入院患者さん、採血室にこられた 400 名の外来患者さんお一人 4 本採血すると何と 3200 検体！（プラス尿検体）。これだけの膨大な検体数が届き次第さまざまな機器にかけられ測定されます。それらの約 7割は午前中に集中することから、その間の検査室内はピリピリと緊張感が張り詰めた状況になることもしばしばです。このように多くの検体の検査結果を一刻も早くそれぞれの診療の場に報告するためにはさながら工場のようにみえる相応の設備が必要なのです。

さて、このような環境で検体検査の臨床検査技師はどのような仕事をしているのでしょうか。ほとんどを分析装置が行うので余裕がありそう？と思われるかも知れませんが、実際は大きく違います。精密な機械であるが故に毎日、朝昼晩(夕方)のメンテナンスが不可欠です。正しく分析しているのか、テスト検体を測定して検査技師の厳しい目で確認し、わずかな異常も見逃さず迅速に対処しなくてはなりません。このような作業を約 20 台の分析装置と 100 を超える検査項目について行います。さらに実際に分析された患者さんの検体結果を確認して必要であれば直ちに再検査を行い、これまでの検査結果や他の検体の解析結果も考慮して最終報告します。とりわけ、血液像や尿沈渣など細胞の形や状態を判別する装置は分析技術が進んでも、最終報告まで満足できるレベルには遠く至らず、検査技師の熟練された技能に委ねる部分が多いのです。それを行う検査技師は顕微鏡を覗き込み細胞ひとつひとつを分類するため、気が付けばすでに終業時間ということも多くあります。検査部機器の間を飛び回っている検査技師の日常業務の一端をご紹介します、ご理解いただけると嬉しく思います。

このような膨大な分析を毎日繰り返す装置は老朽化も早く、劣化に伴って検査精度も下がります。臨床検査部では先月 9 月に最新の生化学と尿検査の自動分析装置に更新しました！。生化学分析の処理能力はこれまでの約 1.5 倍となります。これにより分析精度がさらに向上し、検査報告時間も短縮できること、さらに担当技師の終業まで毎日“仕事に追われる感”も緩和されるのではと期待しています。新しい尿検査の分析装置 2 台に加え、検査室のレイアウトも少し変更しました。最新の機器を見に臨床検査部を訪れてみて下さい。今後とも引き続き検体検査業務にご理解とご支援をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。



生化学検査分析機



尿検査分析機

文責 臨床検査部 根間 敏郎  
武城 英明